

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

越後駒ヶ岳ー規模雄大の名山ー



越後駒ヶ岳の雄姿(道行山から)

7月中旬、越後駒ヶ岳（2003^ト）に登った。深田久弥が「魚沼駒ヶ岳」の名前で挙げた日本百名山である。

前日はバスで着いた大湯温泉から1時間余歩いて駒ノ湯山荘に泊まり、温泉と山菜料理を堪能した。

翌朝8時出発、小倉尾根経由で駒ヶ岳に向かう。最初からブナ林の中の急な登り。しばらく登ると樹間に駒ヶ岳が姿を見せ、あまりの大きさにウンザリする。栗ノ木沢ノ頭付近でブナ林が雑木林に変わり、更に頑張って登るうちに灌木が次第に低くなり、小倉山直下のクサリ場に出た。クサリを登り切ると途端にだっ広い笹原になり小倉山到着11時半。



百草ノ池

くたびれ果て大休止。

後は緩やかな尾根を上り下りし、途中、

百草ノ池を見物し、最後に駒ノ小屋直下

の岩場をペンキのルート標示に従って慎重に登り、駒ノ小屋到着15時。立派な2階建ての素泊り小屋である。小屋前のベンチで涼風に吹かれながら、先客3人とコーヒータイム。今夜の客は我々4人だけで、各人、二階を広々と占領して早寝した。翌日は中ノ



駒ノ小屋下からの駒ヶ岳

岳を越えて十

字峡に下りる長丁場を考え、早朝4時半出発。雪渓と草原の連続する駒ヶ岳の登りは一面のお花畑である。ハクサンコザクラ、ハクサンフウロ、イワイチゲなどが咲き乱れていた。稜線に出て中ノ岳分岐から右へ登りして5時、駒ヶ岳山頂。水無沢を挟んで八海山のギザギザ岩峰が迫力だった。分岐に戻り、稜線を南に辿る。ハイマツを縫ってゆっくりとした下りが続き、6時天狗平。後は木の根が絡み合った歩き難い稜線道を樹林の間を出たり入ったりしながら登り下りを繰り返し、最後にキツイ登りをこなして10時中ノ岳（2085^ト）山頂。四周遮るものもない展望のはずが、残念ながらモヤに霞んでいた。

中ノ岳からは小天上へ急下降し、池塘と草原の日向山を越え、千本松原を過ぎると、後はひたすらの下りで十字峡14時着。最後に長い車道歩きに完全にアゴを出して15時半、やっと野中のバス停にたどり着いた。



駒ヶ岳山頂から臨む中ノ岳・八海山